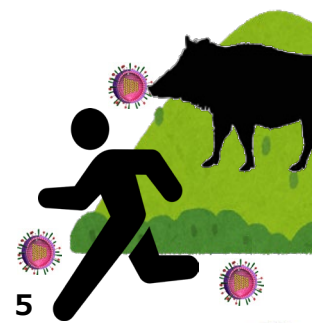


豚熱感染のしし生息エリアの養豚場における衛生対策のポイント

1. 農場周囲の消毒等
 - ① 農場周囲の餌場となりやすい場所や雑木林などのししが隠れる場所の伐採・整理整頓
 - ② 柵外側の定期的な消毒等により農場にいのしし・ウイルスを近づけない
 - ③ 農場内へのウイルス侵入を想定した衛生管理区域内の定期的な消毒
2. 離乳舎における衛生管理
 - (1) 畜舎内用の①長靴の履き替え②衣服の更衣、③畜舎立入り時の手指消毒、④畜舎に持ち込む資材の消毒
 - (2) 畜舎ネズミ等の侵入防止のため、壁や天井の点検及び修繕
有機物の存在を前提にした適切な濃度の消毒薬、踏込消毒槽は1日1回は交換
ワクチン接種のみならず衛生管理の指導を担えるよう家畜保健衛生所との連携体制を構築
山林からウイルスを持ち帰らないため靴・衣服の土を山で落とし、帰宅後直ちに洗浄
3. 消毒液濃度及び交換頻度
4. 知事認定獣医師の教育
5. 山林等に入った際の注意



5

土を持ち込まない

2-(1)



①②専用靴・衣服の使用、③手指消毒

2-(1)④



離乳豚や餌の運搬時には事前に
運搬用具全体と手指を消毒
(畜舎出入口でタイヤ周り再消毒)

1-③



区域内の定期消毒

1-①

伐採・整理整頓

1-②

柵外側の定期消毒

2-(2)



壁や天井の点検・修繕

3

1日1回交換

離乳舎

4 衛生管理指導

衛生管理区域

経口ワクチン散布に係る現状と今後の推進方向

経口ワクチン散布の効果

【豚熱陽性率の変化】

早い時期から経口ワクチン散布を実施している岐阜県、愛知県等、中心部の県では野生イノシシの豚熱陽性率が低下。

一方、取組期間が短く、散布量が少ない東西の辺縁部の府県ほど陽性率が高い傾向となり、散布効果を確認。



今後の散布の考え方

【感染状況に応じた散布】

散布量の偏重を是正し、発生ピークを経過した中心部は再侵入を防止し、まん延の最前線である辺縁部はまん延スピードを弱め、九州への侵入等を防止。

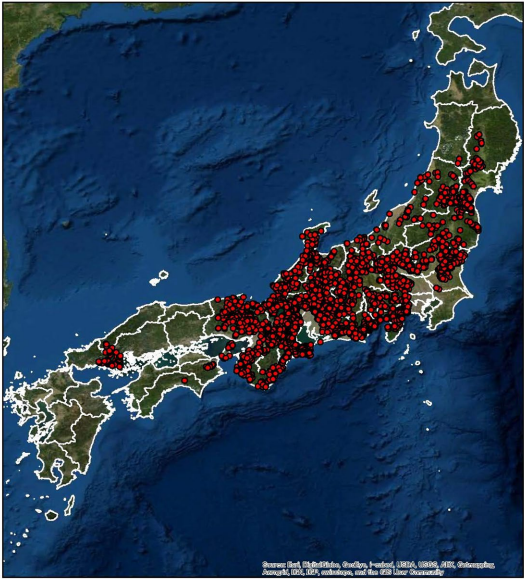
最近のサーベイランス検査の結果では、東北（宮城県等）、近畿（兵庫県等）では陽性個体の割合が高いが、岐阜県、愛知県等での陽性個体は稀となっている。

最近の野生イノシシサーベイランス検査の結果

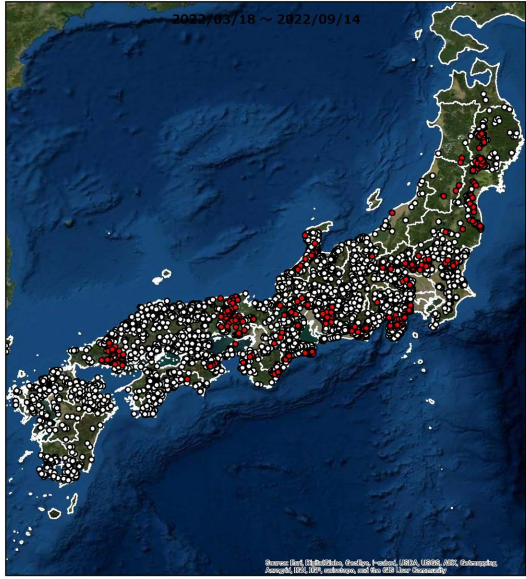
	検査頭数	陰性	陽性	割合
宮城県	28	23	5	17.9%
山形県	2	1	0	50.0%
長野県	334	332	2	0.6%
岐阜県	865	857	8	0.9%
愛知県	259	255	4	1.5%
兵庫県	150	126	24	16.0%

令和4年5～7月捕獲、回収分

豚熱感染野生イノシシ発見地点（累積）



豚熱感染野生イノシシ発見地点（直近6ヵ月）



豚熱感染野生イノシシの発見地点のプロット図（令和4年9月14日時点）

陽性 ●
陰性 ○